

「わかりません。もう一度お願いします!」

気付いた人も多いと思います。昨日のメッセージよりフォントを変更しました。これからこのフォント使っていきます。「UDフォント」と言います。この「UD」とは何か知っていますか。

Universal Design(ユニバーサル・デザイン)の頭文字をとった言葉です。「ユニバーサル・デザイン」とは、全ての人に合ったデザインということ。若者はもちろん、お年寄り、外国人、いろいろな意味で読み書きに困難を感じる方……あらゆる人に優しいという意味で使われます。したがって、「UDフォント」とは、全ての人の読みやすさを考慮した書体です。

「バリアフリー」とよく似ていますが、厳密に言うとは違います。その言葉は、もともとお年寄りや障がいのある方を対象にして生まれました。「ユニバーサルデザイン」は、お年寄りや障がいのある方に限らず、全ての人を対象にしているということで、「バリアフリー」とは異なるのです。

実は、私たち瑞浪北中の教師は、授業においてユニバーサル・デザインを取り入れようとがんばっています。生徒のみなさんはそれを意識して授業を受けていないでしょうから、なかなかわからないと思います。今日はその一端を教えますね。

授業は講義ではありません。したがって、「教師が時間いっぱい話しかけて、チャイムが鳴ったら終わり」という進め方はしていません。どの授業者も黒板に「課題」を書きますよね。つまり、「今日はこういうことをこの一時間で学びますよ」と示しているのです。中には、一時間の流れを生徒に示している授業者もいます。つまり、授業の見通しをもたせることがユニバーサル・デザインとなるのです。

教科によって、好き嫌いがありませんよね。得手不得手も当然あります。それまでの授業の流れがつかめている人もいれば、つかめていない人もいます。私たち教師は、いろんなタイプの生徒がいる中で授業をしなければなりません。したがって、興味関心をもってもらうとうと、視覚に訴えて授業をします。画像や動画を積極的に取り入れたり、デジタル教科書を使ったりしているはそのためです。

まだまだありますよ。しかし、ユニバーサル・デザインをいくらか心掛けても、教師の独りよがりの授業になってしまうことがあります。そうならないために大切なことは、生徒たちの反応に敏感になることです。これが難しいのです。授業に熱が入ると、ついつい生徒を置き去りにして自分のペースで授業を進めてしまいます。それだけ一生懸命だということですけどね。

そこで、生徒のみなさんにお願いです。授業中でもよいので、どんな質問をしてください。質問があると、教師は教え方を振り返ることができますからね。「わかりません。もう一度お願いします!」なんて言ってもらえたら最高! 教師にとっては、そこに自分を高めるヒントがあるのですから。

(一月二十二日記)